

1 生涯学習の支援と推進体制の整備

めざす姿

市民一人ひとりが生涯にわたって心豊かで潤いのある生活が送られるよう自発的意志に基づいて学習ができ、その成果が社会に生かすことができている。

	推移							目標	
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H35
生涯学習に取り組みやすい(満足度調査)	3.12p	—	3.15p	—	3.1p	—	—	3.30p	3.50p

30年度の
ポイント

- ① 多様化する学習ニーズに対応するための情報発信
- ② 生涯学習プランの推進

① 社会教育総務管理事業 **継続** 【予算額 8,228千円】

学習情報の提供

「まなびい」「生涯学習メニュー版」の発行による情報発信

アルプスふれあいキャンプの実施

自然体験・共同生活体験活動を通して、仲間づくりするとともに
自主性や社会性など「生きる力」の育成を図る

人権教育の推進

人権教育推進協議会を運営し、講演会等を行い人権教育を推進する

全国大会出場者の激励

文化団体の全国大会出場者に対して激励する



みんなで協力して夕食づくり

アルプスふれあいキャンプ 二次キャンプ



今日のお昼は流しそうめん

於：戸倉山キャンプ場



「生涯学習メニュー版」
公民館などで開催する
講座等を紹介

② 公民館管理運営事業 **継続**

【予算額8,390千円】

3公民館共同事業の実施

年3回のふるさと講座の開催
市立公民館70周年記念事業の実施
公民館報の発行

各公民館の管理運営事業の実施

公民館運営審議会の開催
学級・講座の企画運営による学習活動
分館の育成（分館長・主事会の開催）
施設管理



ふるさと講座

2 生涯学習施設の整備と活用

めざす姿 地域の特性を活用しながら、学び・実践していく場所としての施設整備と活用がなされている。

	推移							目標	
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H35
図書館や公民館などの利用環境が整っている(満足度調査)	3.63p	—	3.65p	—	3.6p	—	—	3.70p	3.80p

30年度のポイント ① 老朽化していく学習施設の整備を進めます。
② 生涯学習活動を支援します。

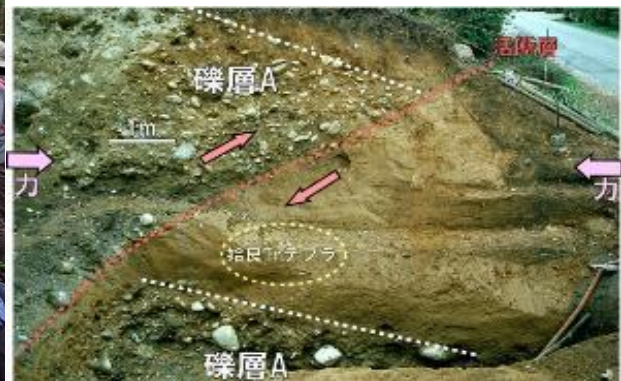
① **地域交流センター等整備事業** **新規** 【予算額348,086千円】
赤穂公民館の建替え H29年度～H31年度

② **ふるさとの丘管理運営事業** **継続** 【予算額8,368千円】
指定管理による維持管理
竹花工業(株)駒ヶ根支店に指定管理を委託し施設の維持管理を行う
ふるさとの丘施設用地の借用
6人の方から借用している土地の賃借料

③ **十二天の森整備運営事業** **継続**
【予算額 2,319千円】
生涯学習の場として、子どもたちを中心に活用する
自然観察会、ウォーキング講習等の開催
遊歩道等の整備
ボランティア活動



春の自然観察会



断層路頭部分

④ **市民農園整備運営事業** **継続** 【予算額 117千円】
市民農園の貸出
市民農園 北割23区画、南割16区画、計39区画の貸出し
市民農園用地の賃借料

1 文化財の保存と多面的な活用の推進

めざす姿

貴重な文化財の調査研究・保存に努め、有効に活用しながら、次世代に引き継ぐ意識の高揚が図られている。

	推移 (H29は見込み)					目標			
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H35
文化財の指定件数	-	-	42件	45件	48件	49件	50件	51件	55件

30年度の
ポイント

- ① 新たな文化財の指定
② 文化財の有効活用を図る

① 竹村家管理運営事業 **継続** 【予算額 2,785千円】

指定管理による維持管理

駒ヶ根伊南シルバー人材センターに指定管理を委託し施設の維持管理を行う

施設用地の借用

借用地の賃借料



旧竹村家住宅 文化財防火デー

② 文化財保存事業 **継続**

新たな文化財の指定 【予算額 2,185千円】

文化財審議会の開催

指定文化財の保存管理

旧木下家住宅

民俗資料館

赤須城跡

芭蕉の松

文化財活用イベントの開催

旧木下家住宅活用イベント

「夢育屋」を開催

光前寺庭園整備活用委員会の開催

名勝光前寺庭園の整備を行うための活用委員会の開催、講演会等の開催

文化財の修繕

郷土館等修繕 300千円



芭蕉の松(東伊那火山)



旧木下家住宅(中沢中山) 活用イベント「夢育屋」



郷土館(菅の台) 駒ヶ根高原ブライダル協会

③ 埋蔵文化財発掘事業 **継続** 【予算額 141千円】

埋蔵文化財発掘調査委託

- ・埋蔵文化財包蔵地において緊急的に発掘調査が必要となった場合に実施するその後、事業主より調査費を補填させる
- ・埋蔵文化財包蔵地にかかる土木工事等の工事立会い

2 創造的な文化芸術活動の推進

めざす姿 多くの市民が優れた文化芸術に触れる機会を持ち、自らも文化・芸術活動に参加をしている。

	推移 (H28は見込み)					目標			
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H35
文化芸術に親しみやすい(満足度調査)	3.05p	-	3.10p	-	3.15p	-	3.21p	-	3.30p
文化センター利用者数	151千人	152千人	154千人	156千人	156千人	157千人	157千人	158千人	159千人

- 30年度のポイント**
- ① 優れた芸術文化を鑑賞する機会を提供します。
 - ② 文化施設の整備を進めます。

① 総合文化会館の運営 **継続** 【予算額 230,893千円】

文化センター管理運営事業 (206,183千円)

- 駒ヶ根市文化財団に指定管理を委託し各種事業の実施及び施設の維持管理を行う
- 自主事業の開催 (古典芸能・ミュージカル・オペラ等)
- 文化団体・鑑賞団体の育成と支援、伝統芸術文化の継承と保存、施設管理
- 駒ヶ根市文化財団職員の人件費補助
- 専門的職員を育成し、身分保証していくため 嘱託職員を正規化する
- 駒ヶ根市文化財団に指定管理を委託し勤労青少年ホーム女性ふれあい館運営を実施
- 勤労青少年ホーム、女性ふれあい館によるスキルアップ講座等の開催
- 施設の大型修繕
- 文化センター空調調査委託等 5,000千円

図書館管理運営事業 (19,980千円)

- 駒ヶ根市文化財団に指定管理を委託し図書館運営を実施
- 図書、諸資料の購入による蔵書資料の充実を図る
- 子ども活動推進計画による、
 - ・ブックスタート、セカンドブックの実施
 - ・絵本巡回事業の実施
 - ・おはなし会等の行事の開始

蔵書数及び貸出数の推移

	平成25年度 (実績)	平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (予定)	平成30年度 (目標)
蔵書数(冊)	183,776	185,598	174,464	174,860	174,800	174,800
貸出数(冊)	203,942	195,986	220,724	210,678	211,500	212,000

博物館管理運営事業(2,639千円)

- 駒ヶ根市文化財団に指定管理を委託し、博物館運営を実施
- 第17回「駒展」の開催
- 第3回ジュニア駒展の開催
- 各種企画展示の開催
- 資料の収集整理
- 収蔵資料集 約127千点
- 「駒ヶ根市の先人」作成



第2回「ジュニア駒展」市内小・中学生33名が入選

天竜かっぱ広場管理運営事業 (2,091千円)

- 駒ヶ根市文化財団に指定管理を委託し天竜かっぱ広場運営を実施
- ふれあい講座、ミニほっと講座、歴史講座の開催
- 館収蔵資料・作品による企画展示の開催
- 竜東地域活性化への協力
- 施設管理

② 文化芸術振興事業 **継続** 【予算額 783千円】

- 子ども音楽祭 ほか

1 市民スポーツの推進と環境整備

めざす姿

- ・スポーツを親しむ市民が増えている。
- ・市民出身のアスリートが各種大会で活躍している。

	推移(H29は見込み)						目標		
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H35
スポーツ少年団の小・中学生の加入割合	23.4%	22.9%	20.6%	21.6%	19.9%	20.7%	25.0%	25.5%	26.5%
週1回以上スポーツを実施する市民の割合	32.0%					55.0%	56.0%	57.0%	65.0%

30年度の ポイント

スポーツがもつ本来の力で地域コミュニティーや絆を構築し、一体感ある地域を目指します。

① 第6回信州駒ヶ根ハーフマラソンの開催

継続

【予算額 8,539千円】

過去5回の大会では、「走る人」「応援する人」「スタッフとして支える人」が皆で楽しむことをコンセプトに、市内各地域や、団体の皆様のご協力の下、大会に参加されたランナーの皆様から高い評価を受けることができました。
今年も全国から参加する約4,000名のランナーの皆さんを、沿道での応援やスタッフとして大会を支える市民の皆さんの笑顔あふれる「おもてなし」でお迎えし、今回もランニング100撰入選と、この大会を軸とした地域の活性化を目指します。

開催日：平成30年9月30日(日) 参加者 4,000名(ハーフ、5Km、3Km)



② かけろ駒っ子かけっこ教室・検定

継続

【予算額 272千円】

○誰もが親しみやすく、あらゆるスポーツの基礎となる「かけっこ」を通して、子どもの体力向上やスポーツに親しむ機会を増加させ、家庭や地域内でのスポーツによるコミュニティーづくりから地域全体のスポーツ推進を図って行きます。

かけろ駒っ子 かけっこ教室・かけっこ検定

過去4年間で行ったかけっこ教室は、子ども達の運動に対する意識付けとして、一定の成果をあげることができた。

5年目となる今年は、陸上短距離で元オリンピック選手の青戸慎二氏が作成したかけっこマニュアルを基に考案していただいた、かけっこ検定を実施することで、子ども達の運動意識を更に高めていく。

モデル校による学校教育との一体的な取り組みは県内初。

子ども達が検定合格を目標に、学校や家庭、地域でのかけっこの輪を広げ、スポーツに親しむ子どもを増やします。



③ トップアスリートとの交流事業

継続

【予算額 600千円】



オリンピック・パラリンピック・W杯に出場したトップアスリートや、国内トップスポーツで活躍しているアスリートを講師に招き、子どもたちにはスポーツを通して「夢」を持つことや「夢」の実現に向け体切な話を聞いたり実際に指導を受ける中で、自ら「夢」を持ちその「夢」をスポーツを通して実現させるために努力していく姿を応援します。

また、地域でスポーツの指導に携わる人や、これを志す人へもアスリートによる指導者セミナーを開催し、指導者としての心構えや指導方法を学び、指導者の育成や人材発掘へと繋げていきます。

さらに、協定を結んだ日本体育大学や、国内で同じ協定を結んだ他の自治体との連携により、トップアスリートや、集団行動等との交流を核に新たな地域間の交流から生まれる、健康づくりや元気なまちづくりの推進等、地方創生に即した活力ある取り組みを進めます。